

30P2-pm161

回復期リハビリテーション病棟における薬剤師常駐の必要性和潜在的な業務ニーズの探索

○湯本 哲郎^{1,2}, 濃沼 政美^{2,3}, 藤原 久登², 金田 昌之², 綾部 由紀乃², 飯田 純一², 小島 英子², 上手 真梨子², 小島 昌徳², 添田 真司², 瀧本 淳², 田村 和敬², 中村 雅敏², 前田 拓哉², 松原 肇², 齋藤 昌久², 加賀谷 肇²(¹星薬大, ²神奈川県病院薬剤師会, ³日本大薬)

【目的】回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期病棟）における薬剤師常駐の必要性和病棟薬剤師への潜在的な業務ニーズを他職種の視点から探索することを目的として、今回、看護師を対象とした調査を実施したので報告する。

【方法】神奈川県病院薬剤師会の業務調査（会員 365 施設、調査期間 2010 年 12 月～2011 年 2 月：回収率 53.7%）で「回復期病棟を有する」と回答した 27 施設の「回復期病棟に従事する看護師」を対象に薬剤師の病棟業務 4 分野（投薬、服薬指導、薬物療法、薬品管理）10 項目の業務必要度（測定尺度：4 水準）を測定した。また、薬剤師の病棟在駐に必要な時間と、業務必要度との関係について多変量解析を行った。

【結果】対象施設 27 施設中 19 施設（回収施設率 70.4%）、計 202 名の看護師（内、主任以上 35 名）より回答が得られた。看護師による薬剤師の業務必要度は、薬剤自己管理導入時や処方変更時等の服薬指導が最も高く、病棟内の医薬品の適正管理、副作用のモニタリングなどが続いた。また、当該業務を既に薬剤師が実施しているほど、業務必要度は高かった。更に、薬剤師の病棟在駐に必要な時間を長く求める因子としては、薬剤の変更や追加の提案（ $p=0.0498$ ）、薬剤使用に関連する検査の提案（ $p=0.0374$ ）などが挙げられた。

【考察】本解析結果より、看護師は薬剤師の病棟業務が必要であることを日常の業務を通じて実感しており、投薬や服薬指導、薬品管理といった業務も重要であるが、時間的制約を無視すれば、処方の変更や追加、検査の提案といった適正な薬物療法への積極的な関与を求めていると考えられた。

ポスター発表 30P2-pm161

30 日 14:00～16:30

P2 会場 体育施設 1F 第二体育館

環境・衛生系薬学(Environmental and Health Divisions) 社会と薬学

回復期リハビリテーション病棟における薬剤師常駐の必要性和潜在的な業務ニーズの探索

○湯本 哲郎^{1,2}, 濃沼 政美^{2,3}, 藤原 久登², 金田 昌之², 綾部 由紀乃², 飯田 純一², 小島 英子², 上手 真梨子², 小島 昌徳², 添田 真司², 瀧本 淳², 田村 和敬², 中村 雅敏², 前田 拓哉², 松原 肇², 齋藤 昌久², 加賀谷 肇²

(¹星薬大, ²神奈川県病院薬剤師会, ³日本大薬)